

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500274		
法人名	社会福祉法人コスモス会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	宮崎県小林市真方5038-1		
自己評価作成日	令和6年11月13日	評価結果市町村受理日	令和7年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人一人の状態観察が行き届いています。 ・水分、食事の見守り、排便コントロールの把握など体調管理を行っています。 ・感染予防の徹底と同時に施設内の清潔保持に努めています。 ・家庭的な雰囲気の中で楽しく安心して日常生活送れるように支援します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に同法人の特別養護老人ホームとデイサービスが併設されており、共通の基本理念に沿って運営が行われている。見晴らしの良い立地で霧島連山の景色を眺めながら利用者は日常的に散歩や戸外でお茶を飲んで気分転換をしている。職員は勤務年数が長く、経験豊富で安心でき、ホールや居室には利用者が全員で作成した壁画や写真が飾られており、アットホームな雰囲気である。また職員は研修会や勉強会で高齢者や若年者の認知に対する理解が深く、利用者への寄り添いを大切にその人らしい暮らしができ、安心して過ごせるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念をひだまり会、朝礼時唱和している。	施設運営理念と基本理念があり、毎朝、担当者(4名)が交互に唱和し、いつまでも自分らしい暮らしを地域と共にを目標とし、ひだまり独自の寄り添いケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり交流の機会が減っていたが、最近はずこじつつ戻りつつあり、隣接するデイサービスへの訪問や、事業所開催の行事に参加し地域の方との交流に取り組んでいる。	日頃から同敷地内のデイサービスと一緒に戸外でお茶を飲んだり、法人主催の行事に家族や地域の保育園、婦人会などが参加するなど交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談員の訪問、地元の高校生の実習等交流することで理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や家族代表、行政の方に参加して頂いている。活動の報告を行い助言や意見をもらい支援に生かしている。	小林市の担当職員や包括、地域代表や家族代表など幅広い分野からの参加があり、活発な意見交換が行われている。毎回、行事や事故報告が行われ、助言で誤薬防止の改善ができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の行政機関には、分からないことや疑問に思う事を相談し、意見や助言を頂き協力をもらっている。	推進会議には必ず市の担当者が参加するなど日頃から協力関係ができています。最近では横浜に転居された方の請求やヒヤリハットの相談など行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修会や勉強会を行っている。利用者の人権を守るために職員同士も確認、理解しながら行っている。	定期的に法人全体やホームで研修会や勉強会が行われ、理解を深めている。玄関の鍵も日中は施錠せず、出ていこうとされる場合は散歩して様子を見るなど利用者に寄り添ったケアに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に人権を考えながら、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方は入居されていないが、学ぶ機会を持ち理解していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項の説明を行い、利用者家族に理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日々の会話の中で不満、苦情などの意見を聞いたり、表情などでの確認に努めている。 ご家族には来所時や、運営推進会議に出席のご家族代表から意見、要望などを伺うようにしている。	玄関にホームの評価表やマニュアル、推進会議の記録などいつでも見られるように置いてある。6名の家族とはSNSで写真や日頃の様子を知らせてなんでも言える関係作りに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	要望、意見があればその都度可能な範囲であれば対応し働きやすい環境作りに努めている。	自己評価を年1回行い、提案なども書いてもらい、施設長に提出している。母体が小林JAで施設長も変わるがこれまで働きやすい環境作りを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望などを聞きながら、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修やweb研修に参加し、研修の内容を他職員にも周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者と交流する機会がないが交流する機会をもちサービスの向上に努めたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心できる言葉かけを行い表情や様子の変化に気をつけながら関係性を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットでの説明や、希望があれば見学に来て頂き不安にならない様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の要望に応えられるように、家族や居宅支援事業所、サービス事業所と連携を取りながら安心して利用できるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援していく中で生活の知恵や励ましをもらう事もある。できることはお手伝いして頂きながら共に支えあう環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに日常の様子を報告し共に喜びを感じたりしながら一緒に本人を支えていく関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスの馴染みの利用者と面会できるよう支援に努めている。	最近は家族や友人がホームで面会し、居室にも自由に入れるようになっている。併設のデイサービスやヘルパーセンターのヘルパーなど馴染みの人達にも会いに行けるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性も考えながら皆さんと話ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も外出先などでお会いした時は気軽にお話しできるような雰囲気づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話したり、ご家族に話を聞くことで本人の意向を把握できるように努めている。	利用者の傾聴では「家に帰りたい」が一番多く、家族との病院受診の際などに自宅に帰られるように支援している。また、今年の忘年会での食事は利用者の要望でオードブルになり、思いや意向を大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と関わることで昔の話を聞いたり、利用者様同士の会話を聞いたりすることで情報を収集し、聞いたことを職員で共有し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のその日の状況、状態に合わせて有意義に過ごして頂けるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録を評価しながら変化に気付けるよう職員と共有している。家族の意見も聞きながら介護計画に生かしている。	毎月の会議で全員のモニタリングを話し合ったり、見直しなども行われている。最近では失禁の多い、利用者の介護の見直しも行われ、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの内容についてはケアカンファレンスの時に確認したり、個別の記録とは別のノートに記録し職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診はご家族にお願いしているが医療機関とも連携をとりながら支援している。有償ヘルパーも利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、教育機関のボランティアなど関わりながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する掛かりつけ医を受診している。協力医療機関も利用者全員を支援して頂いている。	入居前のかかりつけ医の受診が多く、家族での対応やかかりつけ医が併設の特老に往診にくるので職員と一緒に受診することが多い。緊急時はホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自施設の看護職とは利用者の情報提供をし緊急時の支援体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者やご家族と連絡を取りながらご家族が安心できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族に事業所の状況を説明し重度化した場合の対応、併設施設への移動や他施設への申し込みも勧めている。	契約時にホームの方針(看取りはしないなど)を説明し、重度化した場合は入院や併設の特老への移動など家族と話し合いながら決めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを備え、救急対応などの勉強会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回の避難訓練を実施している。 また、災害時の協力体制もできている。	毎月、場所を変えて防災訓練をしている。 BCPマニュアルなど利用して併設の施設での火災発生などの訓練が行われている。しかし昼間の同じ時間帯が多く、夜間訓練が行われていない。	夜間想定の実践を行うことで夜勤の職員の不安が軽減し、連絡先や避難誘導の仕方が確認でき、地域の消防団との協力体制の構築も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し言葉使いなど気をつけている。	利用者を名字で呼び、スタッフは親しみやすい丁寧な方言でコミュニケーションを取るように努めている。トイレでは中まで誘導し、外で待つなどプライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分で決定できるように言葉かけなどを行い、できるだけ本人の意に沿う支援が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人に合わせ希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみや入浴時の洋服を一緒に選ぶなどしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が苦手な食材の時は変更し楽しんで食べて頂くよう支援している。テーブル拭きやお盆拭きなどお願いしている。	毎食、ホームでご飯とみそ汁を作っているがそれ以外は併設の特老から運ばれてくる。利用者はテーブルやお盆拭きを行い、行事食は利用者と一緒に考えたり、選んだりして楽しんで頂けるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や医師と相談しながら水分量の調節や栄養管理を行っている。状態に合わせきざみ食等を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。 介助が必要な方は付き添いながら支援を行っている。 夜間は入歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者の排泄パターンを把握しながらトイレ誘導の声掛けをし自立への支援を心掛けている。	夜間はポータブルトイレなど利用して排泄介助が行われている。昼間は全員、排泄チェック表を利用して誘導の声掛けを行い、トイレで排泄している。尿取りパットの数が減るなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行っている。水分量の把握や運動の行い自然排便ができるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、一人ずつ入浴を行っている。入浴時はゆっくり入って頂く様支援している	利用者が週2回、毎日、午後2時から3名が一人ずつゆっくり入浴している。嫌がる時も臨機応変に対応し、ゆず風呂など楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールにて過ごして頂き、体操やレクレーションなど行いリズムのある生活をしている 日中、体を動かすことで夜間ゆっくり休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者それぞれの服薬について理解し変更があった時は連絡ノートを活用し確認をとりながら支援し、また医療機関に確認をとりながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのできる事は何かを考えながら楽しみが持てるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外でお茶を飲んだりしている。家族の希望があればできる限り支援している。	玄関に帽子を置き、天気の良い日は施設の外周を散歩したり、お茶を飲むなど日常的に戸外に出かけている。また、地域の花が咲いてるところにドライブに出掛けるなどの支援をしている。、	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口を預かっており、ご家族の了解を得たうえで必要な物や嗜好品の購入の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人持ちの携帯で話をしたり、贈り物が届いた時はご本人より電話を入れるなど支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた貼り絵を飾ったり、カレンダーを毎月作り季節を感じる飾りつけをしている。	窓も多く、外が良く見える環境で室温もスタッフが管理している。毎月、カレンダーを作成したり、共同制作の壁画で季節感が得られ、居心地よい空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置きゆっくりと過ごせるようにしている。気のあった入居者同士で話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、こちよい部屋作りをしている。	居室には馴染みの物や写真が飾られている。転倒する利用者にはクッション性のあるマットや手すりをつけて転倒防止などの工夫がされ、居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に飾りつけをしたり、郵便受けに名前を書き自分の居室であることを理解できるようにしている。		